



歴史の宝庫『あさくら』のご案内 01

ルート志 02

古代のあさくらを駆け抜けた卑弥呼・
神功皇后・斉明天皇ゆかりの地を巡る 02

ルート三 06

戦国大名「秋月氏」と近世黒田秋月藩の
史跡を訪ねて 06

ルート参 10

現代版宝珠山紀行 10
↳ 歌詠みと風景画を徒然に、

ルート四 14

あさくらの路を行く 14
↳ 日田街道、堀川用水、修験道、

ルート伍 16

あさくらの近代化遺産を訪ねて 16
↳ 大刀洗飛行場・音楽館・宝珠山炭坑跡、

豆知識① 卑弥呼伝説 18

豆知識② 修験道の歴史 19

あさくら歴史探訪ガイドマップ 20

目次

歴史の宝庫 『あさくら』のご案内

『あさくら』には、

豊かな歴史に裏付けられた多くの文化遺産があります。
それらの遺産は、それぞれ個別に存在するのではなく、
時の流れや地域の絆の中で生まれたものです。
縄文・弥生の頃から『あさくら』の地に刻まれてきた歴史を

『エッケン爺』と伴に探訪しましょう。



エッケン爺

※このガイドブックの中で、「あさくら」とは、
朝倉地域(朝倉市、筑前町、東峰村)のことを言います。



貝原益軒(1630~1714年)は、筑前国黒田藩に仕えた儒学者
で、「東洋のアリストテレス」と呼ばれた近世日本を代表する天才でした。
18歳で福岡藩に仕えましたが、一代藩主黒田忠之の怒りに触れ、7年
間の浪人生活を送ります。1656年(明暦2年)三代藩主光之に許さ
れ、藩医として帰藩。その後、藩費留学により京都で本草学や朱子学等
を学びます。帰藩後、藩内での朱子学の講義や朝鮮通信使への対応をま
かされるなど藩の重責を担いました。晩年には藩命を受けて「黒田家譜」
や「筑前国統風土記」を編纂しました。

■貝原益軒と『あさくら』の縁

実証を重んじた益軒は、藩内をくまなく巡歴し、自らの実地見聞に基
づいて「筑前国統風土記」を完成させました。この書は、益軒の精魂を込
めた傑作であり、福岡県の風土・歴史を読み解く上で欠かせない貴重な
資料です。その中で益軒は、「山や川の幸は国内随一、国中で土壌が番
肥えている、歴史の香りが高く、品と趣が深い」などと記述し、「あさく
ら」を賞賛しています。また、益軒の妻、東軒は、秋月藩士の娘で、才覚素
晴らしく達筆で益軒の多くの著書を代筆したとも言われています。

『あさくら歴史探訪ガイド』では、本書を読まれる方の案内人とし「あ
さくら」と浅からぬ縁のある貝原益軒をキャラクター化した「エッケン爺」
を登場させています。